

平成 24 年度プロジェクト研究経費の報告書に基づく審査評価

平成 25 年 6 月 19 日

図書館情報メディア系運営委員会

1 外部資金獲得支援 4 件

【250 万円（1 件）、155 万円（1 件）、95 万円（1 件）、70 万円（1 件）】

- ・ いずれの助成案件も外部資金に応募していることから、外部資金獲得支援の主旨は徹底されているものの、1 件は基盤(B)以上という要件を満たしていない。獲得状況は、科研費基盤(B)、基盤(C)および挑戦的萌芽研究のそれぞれ 1 件が採択となったが、厚生労働省や財団への応募は不採択であった（助成 4 件の内、2 件が採択に繋がっている）。
- ・ 得られた研究成果は、いずれの案件においても一定程度以上の成果を達成しており、助成の意義は十分に高いと判断できる。また、経費の支出も妥当であり、十分に活用された結果の成果であったと言える。

2 国際交流 4 件

【50 万円（2 件）、35 万円（1 件）、15 万円（1 件）】

- ・ 共同研究先の中心的人物が入院するという状況により、予定の計画が達成できなかった 1 件を除けば、いずれの助成案件においても、将来的計画も含め、相手方との共同アクティビティ（共著論文や共同調査など）があり、助成の意義はあったと判断できる。
- ・ 経費の支出は、海外への渡航費等の国際交流にふさわしいものとなっている

〔総評〕

- ・ 多くの研究成果を輩出することで外部資金獲得のための基盤固めというレベルでは、その主旨を十分に果たしたと言える。
- ・ 研究内容に踏み込んだの評価では、一部の案件は「基盤研究」より「実証・実践研究」と読み取れ、科研費 基盤研究以外への応募を検討するか、基礎・基盤研究らしい課題として換骨奪胎することが望まれる。
- ・ 研究グループの人数で応募額に制約を設けた試みは、概ね成功していると思われるが、一部の案件で成果に名前が登場しない共同研究者の存在した。この点については、今後の課題として残っているといえる。